

令和2年度 学校評価報告書（実施結果）

1	視 点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自主的な学びを育む教育課程を編成し、定時制の特徴を活かし、少人数で生徒一人ひとりに対するきめ細かな指導を実践する。</li> <li>グローバル社会で対応できるよう、ICT等を活用し、基礎学力の定着を図り、興味関心のあることに対して深く探究できる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭学習の機会を活用し、自学自習の習慣を身につける。授業においても主体的・対話的な学びを育成する。</li> <li>○ICT等を活用し授業改善を推進する。基本的な学力の定着を支援し、さらに進路実現を意識した発展的な学習を個別に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習での課題の提示と取組に対する評価の観点を明確にする。</li> <li>ICT等を活用し授業改善を推進し、教材において資料を共有する。</li> <li>「学び直し」の視点で「わかる授業」を実践する。進学を意識した発展的な学習を個別に対応できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習の課題の提出状況・評価を教科で共有できたか。</li> <li>生徒による授業評価を実施し、組織的な授業改善について検証する。</li> <li>基礎学力の定着の講習や発展的な補習を活用して資格取得や上級学校を目指すことなどを目標とする生徒数が増加したか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、家庭学習における映像教材や課題提示、提出による新しい学びの体制の基盤を整えることができた。</li> <li>11月に、ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを目標とした公開研究授業及び、研究協議を実施し、授業改善に向けた取り組みを行った。</li> <li>生徒の基礎学力の向上を目指して、独自の模擬試験を12月に実施し、結果を生徒に示すことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業アンケートによると、「授業内で、自身で考えること、解決すること」が比較的達成できており、能動的な学びが生徒に浸透し始めてきた。</li> <li>今後、ICTを織り交ぜながら、主体性を育み、基礎学力の定着が図れるような授業を実践し、生徒が自己肯定感を高められるような工夫を検証する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT等を活用した主体的・対話的で深い学びを目標とした公開研究授業や、独自の模擬試験の実施など、基礎学力の定着を図った、先生方の組織的な取り組みは努力の跡が見て取れ、大変効果的な取り組みと考える。</li> <li>学校を休まず来ることがまず大切なことと思います。引き続き実施されたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT等を活用した家庭学習を職員間で情報を共有しながら実践した。オンライン上（Classroom）で生徒の状況を把握しながら授業を実施できた。</li> <li>具体的なテーマを掲げ、ICT等を用いた研究授業を実施し、基礎学力の定着を目的とした授業改善に組織的に取り組むことができた。</li> <li>基礎学力を育成する機会として、校内模擬試験を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>わかる授業の実践のため、より多くの授業でICT等が活用できる体制を整える。</li> <li>生徒による授業評価や研究授業で得られた評価をもとに、学校全体で授業改善に取り組む体制を整える。</li> <li>基礎学力の定着や、発展的な学習に対応するため、チーム・ティーチングの授業を増やすとともに、個別対応の学習機会を増やす。</li> </ul>
2	(幼児・児童) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>共生教育の実現を目指し、高い人権意識を醸成する。</li> <li>組織的な支援体制を構築し、外部機関との連携を図り、心身ともに健全な学校生活を送れるよう支援する。</li> <li>家庭と連携を図り、基本的な生活習慣の確立を図るとともに成人年齢の引き下げに伴い、高校時代に成人としての自覚・責任が持てるよう自立を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様性を理解し、思いやり教育を推進する。</li> <li>○中学校からの支援の引継ぎを的確に行い、早い時期に生徒個々の特性を把握し、当該生徒の特性や状況に応じた支援をする。</li> <li>○家庭と連携を図り、生活習慣の確立や人間としての自立を促し、進級・卒業に向けて学校全体で支援していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>違いや特性を個性ととらえ、高い人権意識を醸成し思いやり教育実践する。</li> <li>始業後早い時期に2年生以上は二者面談を、1年生に対して、SC・SSWとの面接を実施し、生徒ひとり一人の特性を理解する。</li> <li>1学期には、生徒保護者を交え、学習の結果を伝えるとともに、学校生活上の課題、希望する進路や家庭での生活状況などを課題で面談を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやり教育が推進できたか。人間関係に関する悩み相談の件数が減少したか。</li> <li>支援が必要な生徒に対して、外部との連携や支援計画を立てることができたか。そして、安定した学校生活を送れるようになったか。</li> <li>年間で欠席日数が30日以上の子供生徒数、進級・卒業判定時欠時超過生徒が、令和元年度を下回ったか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍の中、感染防止策を講じたが、こころサポート事業や性感染症予防・薬物乱用防止に係る講演会を実施した。</li> <li>SSWを通じて効果的な支援を行い、生徒の進級、卒業に向けた安定した学校生活を支えることが出来た。</li> <li>年間欠席日数が30日以上の子供生徒と比較して減少した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>潜在的な人間関係の悩みについて、SCの活用、面談を適時行い、問題の早期発見に努める。</li> <li>特別支援学校との連携を継続する。中高の連携を密にし、高校入学時のギャップが生徒に及ぼす影響を小さくするよう組織的に動く態勢を作る。</li> <li>家庭との連携を継続的に行う。また、面談を設定し生徒や、生徒を取り巻く環の把握に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人として求められる基本的なマナーの定着が図られるように、保護者との連携を行い、今後も生徒の理解と共に支援をお願いしたい。こころサポート事業や講演会を実施したことを高く評価する。</li> <li>生徒が気軽に相談しやすい環境を作っていくことが大切と思う。友達作りも大切です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けの講演会については、コロナ禍の中でもほぼ例年通りの回数実施することができた。職員向けの研修が十分とは言えない状況なのが課題である。</li> <li>伊勢原養護学校に授業観察を依頼し、その後ケース会議にも出席していただき、生徒の支援方策をともに考える機会を持つことが出来た。また、課題のある生徒について、中学校との連絡を密にことり支援に役立てることが出来た。これらのことが散発的に行われていることが課題である。</li> <li>不登校生徒は昨年度と比較して減少したものの、学校内で対人関係を築くことが苦手な生徒に対する支援策が体系的にできていない点が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒向けの講演会だけでなく、職員向けの研修会も十分に実施し、生徒支援に向けた知識や資質について向上を図る。</li> <li>中学校や、特別支援学校等の外部との連携を学校の仕組みとして整理し、継続的な支援体制の構築を図る。</li> <li>生徒の居場所となる場所を学校内に整備する。授業時間外の相談や、クールダウンのためのリソースルームとして活用できる場所を整備する。</li> </ul>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月30日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のニーズの変化に伴い、一人ひとりの進路実現に対応できるよう幅広いキャリア教育を実践する。定時制改革において進路実現が大きなテーマである。</li> <li>自分の将来に対して、自ら向き合い、主体的に準備できるような様々な経験を積む機会を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これからの社会で必要とされる資質を理解し、自分の将来について、主体的に考えられる能力や資質を育成する。</li> <li>○学校行事・部活動・ボランティア活動等を通して学校貢献・社会貢献ができる人材を育成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>就労支援体制を整え、ハローワーク等の外部機関と連携し、早い段階で準備を進める。進学指導についても情報の共有を図り、個別に支援する。</li> <li>学校行事・部活動・ボランティア活動等において、生徒が主体的に企画・運営・活動ができるよう支援し、達成感・充実感を体験させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談期間を設け個別丁寧な支援ができたか。外部機関との連携による進路指導や情報提供ができたか。</li> <li>生徒自らが進路を考え、積極的に進路実現に向けて行動できたか。</li> <li>学校行事や部活動等に参加する人数が増加したか。上級学校への受験者数が増えたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3者面談や進路指導週間の設置、ハローワークによるキャリアガイダンスを在校生向けにも実施し、情報を提供するとともに、生徒の進路についての意識を高める機会とした。</li> <li>コロナ禍において体育祭の在り方、実施可能な種目等、感染防止策を含め、生徒が主体的に企画・運営をしたことにより、生徒の達成感や充実感も上がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年度当初に生徒が登校できなかったことから、「総合的な学習の時間」「総合的な探究の時間」を活用した計画的な進路指導ができなかった。対面で、自らの進路について考える内容を精選し、継続して取組むとともに、オンラインでも取組める内容の工夫やコンテンツを作成する。</li> <li>学校行事を見直し、より多くの生徒が企画・運営に関わり、参加者を増加させるとともに、生徒が達成感を感じられるような工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に体育祭を企画・運営したことを高く評価する。早い時期からキャリア教育を行ったことは高く評価できる。</li> <li>以前は仕事を持った生徒が多かったと思うが、現在も中学校からの一つの進路先として通っている生徒も多いと思われる。高等学校を卒業して自分の進路に対してしっかりと向き合える生徒の育成を願っています。</li> <li>社会に出て何をしたいか、「世のため、人のため」自分がする仕事がそれになってくれるよう指導していただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談期間を設け、生徒一人ひとりに個別に支援するとともに、外部機関と連携し、進路指導や情報提供をおこなった。また、在校生向けのキャリアガイダンスをハローワークに依頼し、実施した。</li> <li>コロナ禍での体育祭実施について、生徒が主体となり、実施するための企画・運営をおこなった。生徒一人ひとりに行事での役割を与えることで、意欲的に取り組む生徒が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路について、具体的な考えが乏しいまま活動する生徒が少なくないため、入学年次からの準備が必要であり、外部機関と連携して計画的に進路指導を進める。</li> <li>対面での指導に加え、オンラインで取組めるコンテンツを作成する。</li> <li>多くの生徒が行事に参加できるよう、学校行事の見直しをおこない、企画段階から生徒が積極的に参加できるようにする。</li> </ul>
4 地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的な自立を促すために「地域の教育力」を活用し、交流・活動する場面を増やす。</li> <li>定時制の活動を知ってもらうためにHPでの広報活動や学校説明会の実施など積極的に外部への発信を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティ・スクールを活用して地域の教育力を取り入れ学校行事等充実を図る。</li> <li>○人間性と社会性の育成を図るために学校説明会の運営やボランティア活動を積極的にを行い、活動をHP等で発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域貢献活動の内容を精選し、地域と密着する活動にする。</li> <li>HPの充実を図り、学校の最新情報を広く、迅速に提供し、開かれた学校づくりに取り組む。</li> <li>学校説明会を生徒が企画・運営し、定時制の良い面を発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の方々と協働・連携し、地域貢献活動の意義を深めることができたか。</li> <li>HPの内容が充実したか、更新がタイムリーにできたか。</li> <li>学校説明会を生徒が主体的に企画・運営できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を定期的に実施し、最新の情報を伝えることができた。</li> <li>学校説明会を生徒主体で行うことにより、学校の特色やイメージをより分かりやすく伝えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新頻度を向上させるとともに内容を精選し、学校に対する理解がより深まるものになるよう工夫する。</li> <li>生徒主体の学校説明会については、企画段階から生徒が主体的に行えるよう、教員がサポートする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>達成状況を見てコロナ禍でも目標達成したのを感じた。</li> <li>HPの定期的更新や生徒主体の学校説明会など外部へのPRが出来たことを評価する。</li> <li>生徒主体の学校説明会については、企画段階から生徒が主体的に行えるよう、教員がサポートする。</li> <li>生徒の就いている仕事場から何か地域協力に生かせる事はないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新を定期的に実施し、最新の情報を伝えることができた。</li> <li>学校説明会を生徒主体で行うことにより、学校の特色やイメージをより分かりやすく伝えることができた。さらに生徒を主体とした学校説明会の開催を定着させることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの更新頻度を向上させるとともに内容を精選し、学校に対する理解がより深まるものになるよう工夫する。</li> <li>生徒主体の学校説明会については、企画段階から生徒が主体的に行えるよう、教員がサポートする。</li> </ul>
5 学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の教育公務員としての意識向上を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。組織的なチェック体制の確立を図る。</li> <li>近隣自治体と連携・協働を図り、生徒が主体的に防災教育に取り組むと共に、防災に対する知識を高め、意識の醸成を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各グループの業務について、横断的な課題を連携・協力し、負担軽減を図り、事故・不祥事の防止を徹底する。</li> <li>○地域と連携し、校内の防災対策や災害時の体制整備を一層強化し、生徒の防災意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で事故防止会議を行い、教職員の事故・不祥事に対する意識を高める。特に会計処理については、私費会計マニュアルを作成しミスがなくす。</li> <li>地域や自治体と連携、協働した防災訓練が定着してきたので、より内容を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で毎回事故防止会議ができたか。会計担当者会議を定期的に行ってきたか。</li> <li>自治体・自治会と防災計画を確認し、自治会等と連携した防災訓練ができたか。生徒が主体的に活動できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算執行フローチャートを作成し、周知したことで会計処理の事故防止に貢献することができた。</li> <li>コロナ禍の中、感染防止に努めながら防災避難訓練を行い、生徒の防災意識を向上させることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>煩雑な作業については、フローチャートを作成するなど事故防止の策を講じる。</li> <li>コロナ禍の影響で本年度は自治会等と連携した訓練を行うことができなかった。</li> <li>新年度以降、連携を深め、充実した訓練を行っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の方々のバックアップで地元自治会との連携がととても上手くいっているのが感じられる。</li> <li>業務フローを“みえる化”することは有効であり、他の煩雑な業務についても推進していただきたい。</li> <li>全日制と同じように、自他の命を守る防災教育はとても大切なことである。地元で活躍できる高校生のあり方を考えていければ良いと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算執行フローチャートを作成し、周知したことで会計処理の事故防止に貢献することができた。</li> <li>煩雑な作業についてもミスが発生しないような仕組みづくりが課題である。</li> <li>コロナ禍の中、感染防止に努めながら防災避難訓練を行い、生徒の防災意識を向上させることができた。コロナ禍の影響で本年度は自治会等と連携した訓練を行うことができなかったことが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>煩雑な作業についても業務の“みえる化”を行い、フローチャートを作成するなど事故防止の策を講じる。</li> <li>新年度以降、自治会等と連携を深め、充実した訓練を行う。</li> </ul>